



高校生が小学校で交流授業

小学生は機械の仕組みの面白さを、高校生は授業の進め方の難しさを学びました。
「安曇川高校総合学科生、本庄小学生との交流授業」

【特集】市長施政方針 ②—⑤

お知らせ拡大版 ……	⑥—⑧	消費生活相談・省資源 ……	⑫	国保年金あらかると ……	⑳・㉑
タウンピックアップ ……	⑨	びょういんだより ……	⑬	そうだ図書館に行こう ……	㉒
みんなで5・7・5 ……	⑩	健康生活 ……	⑭	窓口だより ……	㉓
教育委員会 information ……	⑪	暮らしの情報 ……	⑮—⑲	歴史散歩 ……	㉔

※今号に掲載しております課名等は編集時のものです。4月1日以降、課名・電話番号が変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。



戦国期拠点城郭

国史跡 清水山城館跡

しみずやま じょうかん あと

清水山城館跡は、饗庭野の南東部の「清水山」と呼ばれた山の上に築かれた戦国時代の山城です。戦国時代の山城は、戦いの時にたてこもる「とりで」のようなものと思われがちですが、清水山城の場合、「政治」「軍事」「居住」の機能が、山城に集中する「戦国期拠点城郭」に位置づけられています。

鎌倉時代から戦国時代末にかけて、高島郡では、近江源氏佐々木氏の一族が活躍しました。嘉禎元年（1235）に佐々木高信が、田中郷の地頭になります。それ以降、一族の越中氏・能登氏・朽木氏・永田氏・横山氏・田中氏・山崎氏は、「西佐々木七人」「七頭」「高島河上七頭」「七佐々木」と呼ばれ、強く結びついていました。この西佐々木一族の惣領家（本家）である佐々木越中氏が、清水山城の城主と伝えられています。

「清水山」のふもとには、南北に近江路が縦断しています。この主要道に面して、北から清水山城の城下とされる「今市」・「平井」・「安養寺」・「川原市」の集落が営まれていて、城下町が成立する過程を知る上で注目されています。登城路（大手道）は平井集落から分岐し、西に伸びていました。

城の遺構は、新旭森林スポーツ公園の西の段丘上から残っています。



主郭 礎石建物跡

段丘上の「御屋敷」・「犬馬場」の地名が残るエリアは、清水山城主である佐々木越中氏の館の跡、流鏑馬の練習の「犬追物」の行事をする場と考えられています。大手道は、この「御屋敷」・「犬馬場」の脇をとり、さらに北西の山に続きます。山腹の「西屋敷」・「東屋敷」の地名が残るエリアは、天台寺院清水寺の坊跡を利用した一族や家来の屋敷跡と考えられています。土を盛った土手（土塁）によって、方形に区画されていて、その中に井戸跡を見ることが出来ます。この屋敷跡と西ノ谷川をはさんだ西側にも、大法（宝）寺と呼ばれる寺跡を屋敷にしたとされる本堂合遺

編集後記

先日ラジオで「現実的な確率」が話題に出ていました。それによると、一生のうちに犯罪被害者になるオッズは20：1、自分の子どもが天才のオッズは250：1、パートナーに浮気されるオッズは4：1で、今日UFOを見るオッズは3百万：1、隕石が自分の家に当たるオッズとなると182兆1,388億8千万：1になるとか。日本での確率とは異なるそうですが、人生の巡り合わせを数字に置き換えてみると何とも興味深いですね。些細な出来事も、実は「偶然が重なり合って生まれた奇跡」との出会い。そう思うと、なんだか少し幸せな気分になります。普段の生活で、大きな幸せにはなかなか巡り会えませんが、小さな幸せを感じ積み重ねて行くと、意外にそこへつながる近道となるのかもしれません。（広報担当〇）

跡（井ノ口館）があり、「西屋敷」・「東屋敷」と同様の遺構が残っています。また、隣接して佐々木氏の氏神をまつる大荒比古神社が鎮座します。大手道は西屋敷の中央をとり、山城に続きます。山城は標高約210mの主郭（山城の中心地）を中心として、三方の尾根上に築かれています。ここからのながめは大変よく、西佐々木一族が活躍した高島市中部一帯だけでなく、条件が良ければ、琵琶湖対岸まで見渡すことが出来ます。主郭では、平成8年度の発掘調査によって、常御殿と考えられる礎石建物跡が見つかっています。出土した土器から清水山城は、織田信長が高島郡を攻略する1570年頃まで存続していたと考えられています。また、主郭には、近江（滋賀県）では、あまり見ることができない畝状空堀群が築かれています。信長との攻防にあたり、越前 朝倉氏によって改修された可能性が推測されています。



主郭 礎石建物跡 復元画

に指定されています。現在、清水山城は、みどり豊かな山の中にあります。春には、黄色のマンサク、ピンク色のミツバツツジ、白色のタムシバ、赤色のヤブツバキなどきれいな花を見ることが出来ます。ぜひ、ハイキングに清水山城に登ってみてはいかがでしょうか。（文化財課）